

埼玉県上尾市による新規就農者の育成・定着に向けた取組事例

○ 地域の課題と取組の背景

上尾市では東京に近いという立地条件を活かして、野菜や果樹などの品目を生産し、市内や首都圏の消費地に出荷・販売。農業者の高齢化、後継者不足によって農業者が減少しており、これにより荒廃農地の増加、産地規模の縮小が課題となっている。

市では新たな担い手の確保に向けて、様々な新規就農に関する独自支援策を実施、支援により市内の新規就農者も徐々に増えつつあり、新規就農者の意欲も高まっている。



○ 上尾市の就農支援策の概要

上尾市では、国の農業施設・機械等の導入支援や資金交付の支援を受けられない50歳以上の者も支援できるように60歳未満の新規就農者等を助成対象とした②及び③の支援策を独自に創設しているほか、④による新規就農者のネットワーク化、⑤の新規就農者等の販路開拓等の独自施策も実施。

取組内容	取組効果・反響
①アグリサポーター育成事業（H31年～） 希望者がアグリサポーターとして農作業をボランティアで手伝いながら、生産者から農業の基礎的な知識や技術を学ぶことができる。営農者の労働負担軽減、農外から農業へ触れ合うきっかけづくり、新規就農者の発掘を目的に市が実施。露地野菜と果樹のコースがあり、市がサポーターと市内の農家のマッチングを行っている。	令和6年12月1日時点で40人のサポーター、20軒の農家が登録。これまで研修中の者も含め、2名の新規就農者を確保。
②上尾市新規就農者農業機械等導入支援補助金（R3～） 営農に必要なハウス等の施設やトラクター等の農業機械、栽培環境機器等の農業用資材の導入を補助率2分の1、最大100万円（中古は50万円）まで助成。	経営基盤が弱い新規就農者が営農に必要な施設・機械の導入や営農資材の購入に利用でき、経営安定に役立っていると利用者から好評。
③上尾市新規就農者経営支援補助金（R3～） 営農に必要な種苗や資材、農具や諸材料の購入費用や農業用施設、農機具等の利用料について、ひと月当たり5万円（最大12か月60万円）を助成。	

※ ②及び③の助成対象者は市内在住の認定新規就農者や北足立北部明日の農業担い手育成塾の研修生で国や県の支援を受けていない等の要件がある。

取組内容	取組効果・反響
<p>④上尾ニューノウカース（R5～）</p> <p>イベントでの出展を機に、新規就農者のネットワークを結成。現在、就農から1～4年目の認定新規就農者が5名所属しており、お互いに情報交換などを行い、朝市などの地産地消を推進する地域のイベントにも積極的に参加。今後の上尾の農業を支える担い手として、地元で期待されている。</p>	<p>5名それぞれがお互いに切磋琢磨する組織となっており、ニューノウカース以外の新規就農者も刺激を受けて、経営への意欲が高まっている。</p>
<p>⑤農産物自動販売機（R6～）</p> <p>市が市庁舎前に設置した無人の農産物自動販売機。冷蔵機能による温度管理が可能で、24時間新鮮な農産物の購入が可能。出品農家11名のうち6名が新規就農者。自動販売機の周辺には出品農家に関する看板を設置し、市のHPでも農家紹介を行うなどのPRも実施している。</p>	<p>自販機での販売からファンが増え、出品農家それぞれの直売店や直販サイトでの購入に繋がるなどの効果が出ている。</p>
<p>⑥上尾市農業経営相談（R5～）</p> <p>物価高騰等で様々な経営課題を抱えている市内の農家や新規就農者等を対象に販路開拓や生産性の向上等に関して有識者から助言を得られる無料の相談を実施。</p>	<p>地域外の農業経営等幅広い知見のある有識者により現状の課題を明確にし、具体的な改善策について助言が得られ、集客活性化や販路拡大等課題の改善に繋がっている。</p>
<p>⑦就農予定者サポート事業（R6）</p> <p>JAさいたま北足立北部明日の農業担い手育成塾の研修生及び指導農家を対象に有識者から農業で稼ぐための心持ちや考え方について全体研修、各圃場にて困っていることについて無料の相談を実施。</p>	<p>現在、無料の相談実施中。</p>

上尾市の新規就農支援策の特色、今後の取組方針

上尾市では、国の新規就農施策の支援範囲を補完する形で、営農開始段階の機械や資材等の導入を支援しているほか、新規就農者の定着に資する仲間づくり、販売拡大など様々な施策を独自に実施し効果を上げている。

今後、市は策定した地域計画の充実に向けて、目標地図への新規就農者の位置づけを推進するほか、独自の新規就農支援策を引き続き実施し、新規就農者の確保を進めていくこととしている。

